

第59号 「魅力化」

島根県の高校は今、「しまね留学」として県外生を積極的に募集しています。「ないものはない」というキャッチフレーズで入学者を大幅に増やした島前高校の取組を参考に始まったこの事業は、今では県全体の施策として定着し、地域と学校が一体となった魅力化を推進しています。さらにここ数年は、島根県以外の全国各地の中山間地域高校でも、同様の取組を行うようになってきました。これが「地域みらい留学」と言われるものです。

当然、島根県には過去に培ったノウハウがたくさんあります。先駆者としてのプライドもあります。しかし、都市部で開催される「地域みらい留学説明会」に参加してみると、他県の積極的な取組に危機感を覚え、今後この事業がどうなっていくのか正直不安を感じます。「田舎には何も無い。でも、都会では体験できないことがたくさんある。」というコンセプトで取り組んできたこの事業を、他県も同じコンセプトを掲げて取り組み始めた今、他県との違いをどうアピールしていくべきか、島根にしかないものって何だろう、学校の魅力化と同時に島根県の魅力をもっとアピールしなくてはならないのではないかなど、真剣に考えさせられました。これは、行政も含めた島根県全体で考えていかなくてはならない今後の大きな課題と感じています。

学校独自の魅力化に取り組むことは、高校の生き残りをかけた大きな使命です。地域としても、その地域から高校が無くなってしまふことを何としてでも阻止したいという危機感があります。全国各地で過疎化が進む今、社会の在り方と共に、地域における学校の在り方がますます議論されていくと考えます。島根県の教育についても、どのように変化・進化すべきか様々な知恵を出し合っていく時期がきていると、私は説明会に参加して実感しました。

時代の変化と共に学校の役割も変わっていきます。しかし、我々教師が忘れてはならないこと、それが「教育は人づくり」と「教育は人なり」という二つの言葉に集約されていると感じます。「教育は人づくり」とは言うまでもなく、「教育は人を育てる。人格を形成するために教育がある。」ということです。そして「教育は人なり」は、「子どもたちを豊かに育て、能力を引き出すのは、教師という人間にかかっている。教育は教師次第である。」という意味です。

私は、子どもたち一人一人の魅力を最大限に引き出すことが、最終的には学校や地域の魅力化に直結すると信じています。予測不能な社会を迎えようとしている今だからこそ、教育の不易と流行を常に見極め、子どもたちの成長を促していかなければならないと考えます。